

一人ひとりが 幸せを感じられるまちへ

たかはしくによし
むらかみ
村上市長(新潟県) **高橋邦芳**



国指定の名勝および天然記念物「笹川流れ」

新潟県の最北端に位置する村上市は、面積が1174km²あり、北東部の朝日連峰から南西部へ平野部を分けるように、大川、三面川、荒川という大きな川が日本海に注いでいます。新潟県の総面積のおよそ9.3%を占める広大な面積を持つ本市は、地域の85%の森林面積を有し、50kmに及ぶ海岸線は青く澄み渡り、日本海に沈む夕陽は見る者に感動を与える美麗を誇っています。

特に、国指定名勝・天然記念物である「笹川流れ」(11kmの海岸線)は、幕末の詩人(志士)頼三樹三郎が「松島はこの美麗ありて此の奇抜なし 男鹿はこの奇抜ありて此の美麗なし」と詠みたたえ、今も訪れる多くの

皆さまに感銘を与えています。

海、山、川といった豊かな自然に囲まれ、古くから多くの恵みをもたらしてきた豊穡な地勢は、地域の経済、歴史、文化の中心として現在の村上市の基盤を形成してきました。また、平成28年に北陸で初となる歴史的風致維持向上計画認定市(歴史的風致の制度名称記載)となった本市は、城下町の遺構を後世に伝承する取り組みを進め、村上城跡、旧武家町、旧町人町、寺町といった城下町の要素を、市民の皆さまと共に大切に守り伝える施策を進め、現在では多くの来訪者をお迎えし、まち歩きを楽しんでいただける地方都市として評価をいただいています。

鮭の文化が織りなす郷土愛

地元の高校を卒業後、一時期村上市を離れていましたが、平成の初めごろに地元に戻り、広域行政機構職員としてふるさと市町村圏の総合的・重点的な振興整備を図るための公共事業や、広域の観点から地域振興事業を進めるソフト事業に取り組んできました。

その後、平成20年の市町村合併により新しく「村上市」が誕生したことから、市職員として勤務し、現在、市長となり3期目に入りました。

2期目を迎えた直後の令和元年6月には、山形県沖を震源とする地震により震度



冬の風物詩「越後村上鮭塩引き街道」

6強の激震に見舞われ、多くの住家や公共施設が被災しました。令和2年3月からは新型コロナウイルス感染症との戦いに明け暮れ、令和4年8月の新潟県北部地域を襲った豪雨災害では、住家はもちろん、事業所や道路、河川、農地や林地、農林水産業関連施設などに甚大な被害をもたらす結果となりました。現在災害から1年を経過し、災害復旧の進捗率もおおむね70%を超え順調に推移していますが、今もお避難を継続している行政区があることから、一刻も早く日常を取り戻していただくため災害復旧事業を加速させています。

こうして、2期目は災害や感染症に真正面から向き合った4年間でありました。



各町内の屋台巡行が行われる村上大祭



「村上甚句」を披露する筆者

から現在の場所へ遷座されたことを記念して行われているといわれています。平成30年には「村上祭の屋台行事」として、国の重要無形民俗文化財に指定されました。今年4年ぶりに通常開催となったことや、御遷座から390年となる記念すべき年でしたので、参加する私たちも童心に帰ったようワクワクした気持ちでお祭りを楽しみました。



お城山の頂上から市内を一望

そうした中、令和4年には村上上市が将来も持続するまちであり続けるための「第3次総合計画」を策定し、本市の将来像とした「あふれる笑顔のまち村上」の実現に向けて計画期間の2年目を迎えています。

ここ村上上市は、古くから鮭文化が盛んで、市内中心部を流れる三面川を遡上する鮭を「イヨボヤ」と呼んできました。このイヨとボヤという言葉は共に「魚」を意味する言葉なんです。私たちの先祖は、この三面川の鮭を「魚の中の魚」とし、川の恵みに感謝し、

余すところなく全ていただくという食文化を育んできました。平安時代には王朝貴族に献上されていたほか、江戸時代になると鮭は村上藩の貴重な財源と

され、武士の青砥武平治が自然ふ化増殖システムである「種川の制」を考案し、増殖に努めました。明治11年には、日本初となる人工ふ化に成功し、遡上数の大幅な増加が見られました。こうした長い歴史の中から、村上では独特の鮭文化を築き上げ、今では1年を通しておいしく食べられる鮭料理を生み出してきました。その味は、それぞれの家庭で、親から子へ、子から孫へと守り継がれているんです。

村上大祭

「ハァ」村上は、良い茶のどこ 並び 鮭川 山辺里織(さべりおり)」

これは、村上甚句の一つですが、私にとって村上大祭は、元旦みたいなものです。

村上大祭は、寛永10年6月7日に当時の村上藩主が西奈彌羽黒神社を上(城)から見下ろすのが恐れ多いとして、臥牛山(がまのうま)の中腹

災害からの復興への取り組み

昨年8月3日から降り始めた大雨は、市内各地に大きな被害をもたらしました。その爪痕は深く、今なお復旧作業が続いています。

あの日、私は出張で上京するため新幹線で移動していましたが、徐々に雨の状況がひどくなり、線状降水帯が発生しているとの連絡を受け、急ぎよ出張を取りやめ引き返してきました。4日午前1時56分に大雨特別警報が発報され、その後、警報に切り替わるまでの間に、時間雨量最大152mm、総雨量589mmを記録する大雨となりました。

市内全域で土砂災害や浸水被害が発生し、自衛隊の災害派遣により市民の生命を守るために懸命の救助活動を進めました。県から災害救助法の適用を受けたことに加え、新潟県、県内各市町村からのご支援はもとより、全国の多くの自治体、多くのボランティアの方が駆け付けてくださいました。また、国から激甚災害として指定を受けたことから、改めて被害の大きさを痛感いたしました。本当に多くの皆さまに助けていただいた、このことに心から感謝申し上げます。

被災した市民の生活再建を一刻も早く確実なものとしなければならぬと考えており、引き続き、復旧・復興に向けて、総力を挙げて取り組んでまいります。